

まちづくり委員長特別賞

かのうハウスのこれから ～だいろとの関わり 未来の越後曾根～

新潟県 | 新潟県立新潟工業高等学校 選手…3年生3名、2年生12名、1年生5名



机上の提案ではなく、これまでに行ってきた現在も進行中の活動の報告であり、そこから出てきた提案である点は何より素晴らしい。その活動の拠点が、リノベーションした木造2階建の民家「かのうハウス」なのである。畳敷きをフローリングに替え、もともとあったミシンやラジオを展示して、カフェ・ギャラリースペースにする、昔の掘り炬燵を囲炉裏として復活させる、といった改修を行って、そこで「だいろ(かたつむり)アート展」やまちづくり活動をする建築士の講演会を開催し勉強する。文句のつけようがない。

やや残念なことに、図面らしい図面が1階・2階平面図しかない。そこに方位や道路、隣地などの周辺環境との関係なども描かれるべきだった。立面図・断面図、リノベーション前の平面図もあってよい。

リノベーションについては、建物の価値がどこにあるのかを見極めた上で、どこを残し、どこを変えるかの検討が行われ示されていたらより良かった。行き当たりばったりの改修を今後も重ねるとオリジナルの魅力が失われ、結局は解体への道を進んでしまうことになりかねない。



「活動をしながらかえる」のは良い。学ぶことも多いであろう。まちづくり委員長賞に相応しい。(伊東)

青年委員長特別賞

フラットとオープンコミュニティセンター ～毎日の寄り道と新たなつながりを誘発するまちかど～

東京都 | 東京工業大学附属科学技術高等学校 選手…3年生1名

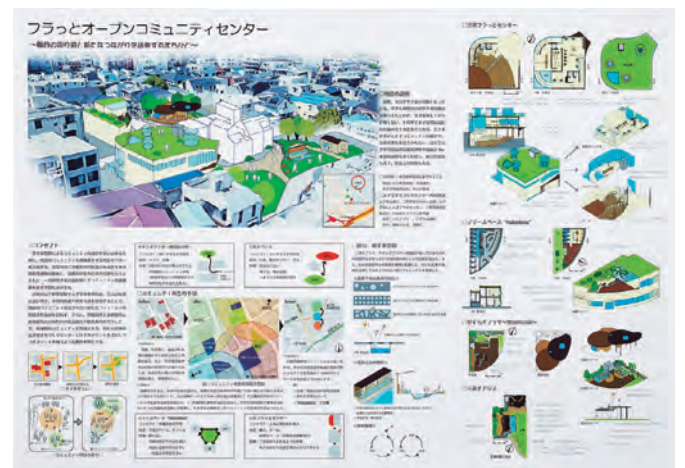


建物が密集する東京都23区内において、空き家率の高い世田谷区。都市計画としての視点から現状の問題の洗い出しと、解決策を見出し、コミュニティの再構築を目指すものとして、街の現状基盤の中での計画ではなく、大胆にも道路の再整備までを含めた都市計画的な提案は他になく、街のボイドを機能的にもたらすことは大変興味深いものであった。

タイトルにもある「フラットとオープンコミュニティ」。まさに地域の人々がフラットな関係性による繋がりを築くための装置である。また将来の展望として、エリアごとに同規模のセンターをつくり、近隣に残る商店街や緑道などのポテンシャルと繋がり～連携～融合して街全体の活性化を視野に入れていることに期待もできるものであった。

建物としてもそれぞれしっかり計画されており、用途の計画、ユニバーサルデザイン、空間構成、断面構成、あるいは「光」「水」「緑」の操作も含め、細部に至る部分までしっかりと考えられており、いかに時間をかけて設計というものを楽しみながら取り組んでいるかが伺えた。

少し物足りない部分としては、4つの機能がそれぞれ個別化されるよ



うな表現になっていた。4つの機能が繋がることで5にも6にもなる波及的效果が表現されているとより良かった。(山本)